

2021年3月11日発行

新型コロナウイルス感染拡大状況下における授業運営の模索

牛 尾 卓 巳

相模女子大学紀要 VOL.84 (2020年度)

新型コロナウイルス感染拡大状況下における 授業運営の模索

牛 尾 卓 巳

Exploring Classroom Management under the Spread of COVID-19

Takumi USHIO

Abstract : COVID-19, which was found in China in December 2019, has spread throughout the world, and on March 11, the World Health Organization (WHO) recognized the outbreak as a pandemic. In Japan, a state of emergency was declared, and the country went into a voluntary lockdown. Our lifestyle has changed drastically, and measures completely different from the past were needed in the education field as well. The Department of General Design Studies for Innovative Life at Sagami Women's University also repeatedly considered how to hold classes.

This paper describes the attempts to hold classes during the COVID-19 pandemic in two textile courses, which I taught in the first semester (spring semester) of the 2020 academic year, as well as the prospects found through the attempts.

Key Words : COVID-19, textile, classroom, manaba

1 はじめに

2019年12月に中国で確認された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は瞬く間に世界中へと感染拡大し、翌年3月には世界保健機関（WHO）により世界的な大流行を示すパンデミックであると宣言された。日本国内でも日を追うごとに感染者が増加し、4月16日には全国へ緊急事態宣言が発令された。期間中は感染拡大防止のため外出の自粛が呼びかけ

られ、対面で行われていたことの多くがオンラインへと移行していった。5月25日に解除された後も影響は続き、私たちの生活様式は大きく変化した。大学教育においてもこれまでとは全く違った対応が求められることとなった。

本稿では私が相模女子大学にて、2020年度春学期に実践した新型コロナウイルス感染拡大状況下での授業運営の試みについて記述する。

2 2020年度春学期

相模女子大学では4月の入学式が中止となり、授業開始が当初予定されていた4月13日から連休明けの5月7日へと変更された。それに伴い春学期の授業回数が15回から12回に短縮された（残りの3回は課題等をもって補う）上、全ての授業がオンラインへと切り替えられた。

オンライン授業ではmanaba¹とZoom²の2つのツールが授業の運営に使用された。manabaは相模女子大学に2017年から導入されているクラウド型の教育支援システムで、課題の出題と回収、教材の配布、出席や成績の管理など、授業を運営する上で必要な機能が充実している。Zoomはオンライン上で複数の参加者と同時にコミュニケーションがとれるWeb会議システムで、リアルタイムでの講義や課題発表などに活用された。

私はテキスタイル分野の演習科目である「テキスタイルデザイン基礎Ⅱ」及び「ファブリックワーク」において、これまで学内の設備を使用し対面で行われていた授業をいかにしてオンラインで運営するかを模索し再構築していった。

3 テキスタイルデザイン基礎Ⅱ

この授業はテキスタイルデザインの基礎である織物について学ぶ演習科目である（3セメ／1コマ）。前年度の授業では、はじめに織物組織を理解するため1cm幅にカットした色紙を経糸・緯糸として構造的に組み合わせる課題を行った。平織り・斜文織などの織物組織と、それぞれの色による色糸効果についてここで説明した。その後木枠に経糸を張り、裂いた生地を緯糸として織り込み布にする「裂織り」の実習をした。

前述のとおり春学期はオンラインによる授業で、第1～4回はmanabaのみで行う必要があった。不要不急の外出自粛が要請されている中、材料の買い出しなど授業のために外出を指示するわけにもいかない。この状況でしかできない学習方法を模索した末に、第1回の授業課題は「自宅にある布を観察する」という内容に至った。布は生活と密接に係る素材で、当然のように私たちの身の回りに存在している。あまりに身近で注視する機会はないだろうと考えた。経糸、緯糸の構成が判別できるようスマートフォンやデジタルカメラの拡大機能を利用し撮影する。その画像を観察し経糸と緯糸の組み合わせをそ

れぞれ黒、白で描き表す。これにより布を構成している織物組織について理解を促した。また、身近にあるものをあらためて観察する行為を通して、視点を変えて物事を捉える思考を育てる目的もあった。

3-1 授業概要の公開

まずは授業開始前に授業概要と日程、運営方法についてmanabaにて周知した。以下、公開した「授業概要」から抜粋する。

テキスタイルデザイン基礎Ⅱ > コースコンテンツ > 授業内容について > 授業概要 より

[授業概要]

公開期間：2020-05-04 19:00:00～

○ 授業の到達目標

経糸（たていと）と緯糸（よこいと）により布が織られていること、使う糸の組み合わせでさまざまな素材感の布が生まれることを理解し、テキスタイルデザインに応用する力を身につける。「裂織り」を通してサステイナブル・デザインという概念を知り、プロダクトとして提案できるようにする。

○ 授業概要

テキスタイルデザインを学ぶ上で欠かせない「織り」について、まずは身近な布を通して織物の成り立ちを知る。

（中略）

○ 授業の運営

当面はmanabaを利用した自宅学習を予定しています。

授業毎に課題を出題するので提出期限までに提出してください。課題提出を「出席」とします。

リマインダーを設定し、課題の確認が遅れないよう注意してください。

制作に可能な条件が整えば実際に織り（裂織り）による課題に移行したいと思います。

現段階では在宅で制作できるよう、教材の発送を考えています。

○ 材料の準備

上記のとおり制作に可能な条件が整えば実際に織り（裂織り）による課題に移行したいと思えます。

準備として織物の材料になりそうなものを家の中で探しておいてください。

例えば、着なくなった衣類、使わなくなった布類、またビニール、和紙など細く裂いて（切つて）紐状になるもの。あまり硬いものは向いていません。

サンプル制作分はこちらで用意します。

皆さん新型コロナウイルスのため落ち着かない毎日を過ごしていると思いますが、今は自宅でできる学習を進めましょう。

3-2 第1回授業課題の公開

授業概要と同時に第1回授業課題についてコンテンツを公開し、授業初日を提出期限とした。これは自粛の時間を有効に使ってもらうため、また新学期開始がずれ込んだことにより不安を感じている学生に早く学修の機会を提供したかったことが理由だ。

第1回授業課題について参考例（図-1）を作成し、以下のとおりmanabaに課題内容を公開した。

テキスタイルデザイン基礎Ⅱ＞コースコンテンツ＞5月11日 第1回授業課題＞第1回授業課題より

[第1回授業課題]

（公開期間：2020-05-04 19:00:00～）

家の中にある「布」をあらためて観察してみよう！

家の中を見回すとたくさんの布に囲まれて生活していることに気付くと思います。身近にあることが当たり前になり、普段見過ごしている布のことをこの機会に見つめ直してみましょう。

自宅にある布をルーペやスマホを利用して拡大し観察してください。様々な布の成り立ちがみえてくると思いますが、今回は「織物」に注目します。織物には経糸（たていと）、緯糸（よこいと）があります。経糸、緯糸が垂直、水平の関係で直角に交わって組織されているのが「織物」です。ニット（編物）や不織布は織物ではありません。



図1-1：manabaに掲載した第1回授業課題①

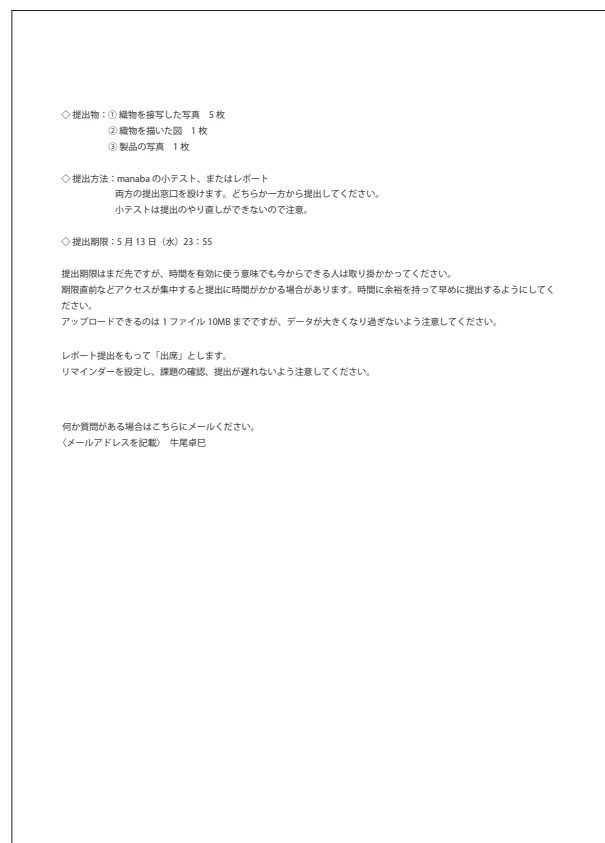


図1-2：manabaに掲載した第1回授業課題②

これを踏まえ次の課題に取り組んでください。

1. 観察した布の中から異なる表情の織物を5種選ぶ。選んだ織物を織り目が見えるようにできる限り接写、拡大して撮影する。

この5枚の画像を提出してください。

2. 選んだ5枚のうち織り目がよくわかる（経糸、緯糸の関係が判別できる）ものを1枚選び、その成り立ちを描く。織目をよく観察し、経糸を黒、緯糸を白で描いてください。どの生地を描いたか明記する。目の詰まった生地は経糸、緯糸が判別しにくいのでおすすめしません。

スマホやPCで作成する、紙に描いたものを撮影するなど、いずれかの方法でデータ化したものを提出。

3. 2で選んだ生地がどんな製品（衣類、カーテン、生地など）か写真を提出。

- ◇ 提出物：1. 織物を接写した写真 5枚
2. 織物を描いた図 1枚
3. 製品の写真 1枚

◇ 提出方法：manaba の小テスト、またはレポート両方の提出窓口を設けます。どちらか一方から提出してください。小テストは提出のやり直しができないので注意。

◇ 提出期限：5月13日（水）23:55
（※授業日は月曜だが何らかのトラブルを考慮して2日後を提出期限とした。受付終了後も提出許可に設定）

提出期限はまだ先ですが、時間を有効に使う意味でも早めに取り組んでください。

期限直前などアクセスが集中すると提出に時間がかかる場合があります。時間に余裕を持って早めに提出するようにしてください。

アップロードできるのは1ファイル10MB（5月当日）ですが、データが大きくなり過ぎないように注意してください。

レポート提出をもって「出席」とします。

リマインダーを設定し、課題の確認、提出が遅れないよう注意してください。

以下がこの課題に提出されたレポートである。(図2-1)(図2-2)

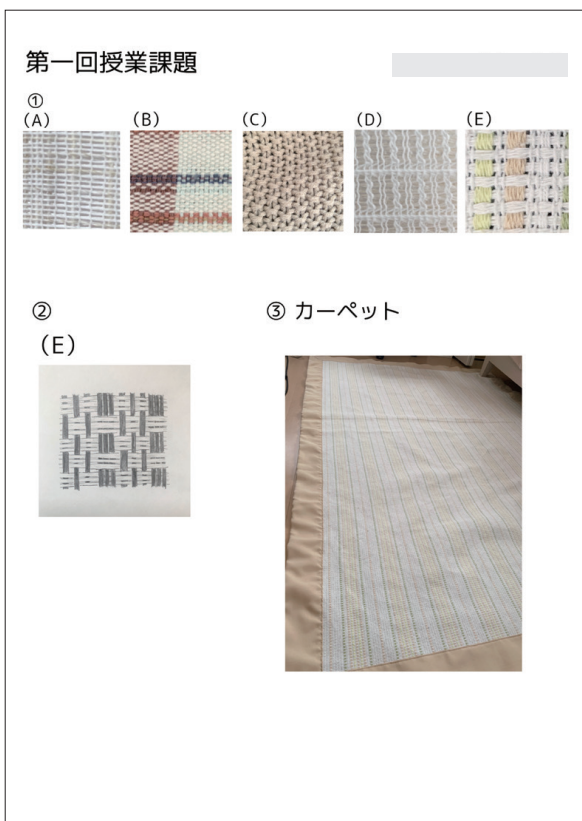


図2-1：「第1回授業課題」レポート①



図2-2：「第1回授業課題」レポート②

3-3 裂織りについてのリサーチ

第2回授業課題はこの後に学ぶ「裂織り」技法によってどんなものが作られているかインターネットを利用しリサーチする課題を出題した。以下、公開したコンテンツより抜粋。

テキスタイルデザイン基礎Ⅱ＞コースコンテンツ＞5月18日 第2回授業課題＞第2回授業課題より

[第2回授業課題]

(公開期間：2020-05-14 08:00:00～)

「裂織り」についてインターネット等を利用し調査してください。

1. 「裂織り」とはどんなものか？ 200～400字程度で記述してください。
2. 「裂織り」でどんなもの（製品、作品）が作られているか？ 5つの例を挙げその画像を提出してください。

◇ 提出物：

1. 「裂織り」とはどんなものか？
200～400字程度で記述したレポート
2. 「裂織り」でどんなものが作られているか？
5枚の画像を提出

(中略)

◇ 提出期限：5月20日（水）23:55

3-4 裂織りによるデザイン

第3回の課題はリサーチをもとに裂織りによるデザイン案を作成する課題である。以下manabaに公開したコンテンツより抜粋。

テキスタイルデザイン基礎Ⅱ＞コースコンテンツ＞5月25日 第3回授業課題＞第3回授業課題

[第3回授業課題]

(公開期間：2020-05-20 23:55:00～)

○ 裂織りによるデザイン

裂織りについての調査をもとに、自分なら裂織りを生かしてどんなデザインを提案するか？自分が制作することを前提としてデザイン案を描いて

提出してください。これをもとにデザインを練り、実際に制作に移ります。できるだけ多くの案を出すことがデザインの力をつけることにも繋がります。

雑貨、インテリア、ファッションアイテムなど用途は自由。

裂織り部分は30cm×40cm程度の面積を最大とする。(これ以上のサイズは応相談)

A4サイズ程度の画用紙、スケッチブックなどに描いたデザイン案を撮影、スキャン等でデータ化したもの、またはPCで作成したものを提出。

コンテンツにアップした「参考作品」にこの授業での過去の課題作品を掲載しています。参考にしてください。

6月から実際に裂織りの制作に入りたいと思います。教材は皆さんのもとへ今月中に届くように発送する予定です。

◇ 提出物：デザインプラン（3案以上）

(中略)

◇ 提出期限：5月27日（水）23:55

3-5 オンラインによる裂織りの実習

第4回以降は学生の通信環境の確認がとれたためZoomを利用して裂織りの実習を試みた。履修者に事前に送付先を確認し木枠・織道具・材料・プリントなどの教材をセットにして送付した。(図3)



図3：必要な教材をセットにして学生に送付

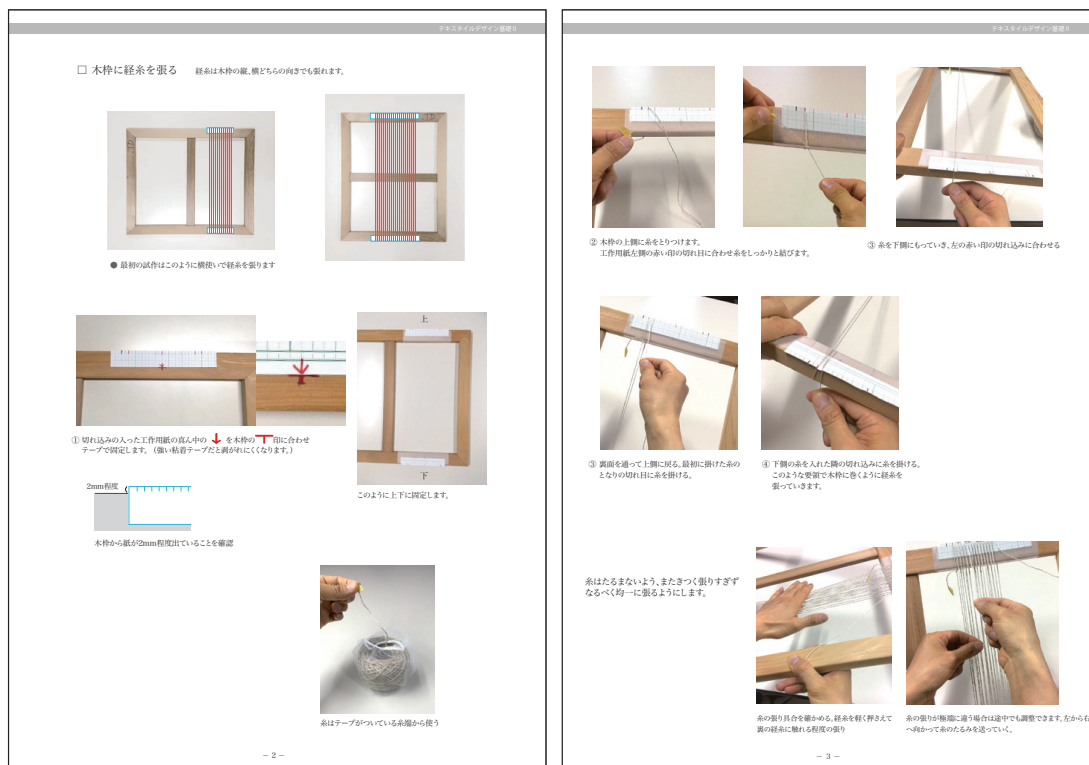


図4：オンライン授業に向けて新たに作成したプリント教材（抜粋）

オンライン授業用に新たに制作工程を解説した紙媒体のプリント教材を作成し同梱した。(図4) オンラインによるリアルタイムでの説明はウェブカメラを通しての実演になる。Zoomで受講する学生はPCやスマートフォンの画面でカメラ映像と教材データを同時に見るのは困難なため紙媒体の教材が必要であると考えた。授業を終えた後には録音した動画をオンデマンド教材としてyoutubeに限定公開した。紙媒体、リアルタイムでの説明、オンデマンドの3段階により何らかの事情でオンライン授業に参加できなかった学生に対してフォローできるようにした。

第4回～5回のサンプル制作を経て、第11回まで自身がデザインした裂織りによるアイテムを制作した。制作中の写真を毎回manabaにレポート提出してもらい、進捗状況と織り方の確認をした。また学修リズムを崩さないためZoomによるリアルタイムでの授業も実施。実演が必要な説明や、質問への対応についてはここで行った。

最終日の講評会では、事前に完成作品の画像を含めたプレゼンデータをレポート提出した上で、Zoomにより画面共有し個々に発表してもらった。以下完成した学生作品である。(図5-1)(図5-2)



図5-1：「裂織り」による学生作品①



図5-2：「裂織り」による学生作品②

4 ファブリックワーク

この授業は5セメに行う演習科目（2コマ）で、前年度は布、繊維素材の加工方法を学んだ上で各自がデザインしたファブリックを制作し、最終的に衣装の形として提案した。今回は在宅でのオンライン授業のため特殊な技法を用いるのは難しく、身の回りにある材料を使用してできる課題を考案した。

第1～6回の授業ではエクササイズとして、自身が撮影した写真や雑誌・インターネット等で見つけた画像を糸・布など繊維を中心とした素材で“描く”基礎課題を出題した。布は繊維素材の集合体であり、織る・編むなどの技術により構造的に組織され成り立っている。この課題では、素材を「貼る」、「縫う」、「結ぶ・巻く・繋ぐ」、「織る・編む」、「複合手法」の5通りの手法により組織させイメージを描く。ひと課題ごとに難易度を上げることで布の成り立ちと繊維によるデザインについて段階的に学んでもらう狙いがあった。

画像を集める際にはテクスチャ採集として新たな視点で周りのものや現象を見直すことを促した。アウトプットの過程として画像から受けるイメージを文章として記すことも条件に入れた。これは素材で描く際に、目から入った画像を一度頭の中に取り込み自分の言葉で表現することで視覚情報を整理し、具現化する際の方向性を明快にするためである。

制作に使用する材料は自宅にあるものを使用するよう勧めた。普段見過ごしている日用品の固定観念を取り払い、「素材」という観点から捉え、表情や加工性、変容性を考慮してみる。

「貼る」は糊材を使用しコラージュ的に素材を集合させる手法である。この手法はほとんど制約なく素材を構成することができるため直感的に“描く”ことができる。

次の「縫う」は素材を針と糸により縫う事により集合させる。「貼る」より手間はかかるが糊剤を使わないためファブリックとしてはより実用的だ。また刺繍のように装飾的な図案を描くこともできる。針と糸による表現、ニードルワークとも言える。

「結ぶ・巻く・繋ぐ」は線の要素による構成になり、技術的により複雑になる。線の集合体により面を成す。具体的な手法の一例としてマクラメの資料をmanabaの「コンテンツ」に掲載した。

「織る・編む」はより実践的な所謂テキスタイルデザインである。布の多くがこれらの技法により生産されている。糸を構造的に組み合わせ布にしてい

くため、間接的にイメージを描くことになる。よって画像を頭の中で整理し、より明快な意図を持って表現する必要がある。ここでは織り・編み技法の資料をmanabaに掲載した。

「複合手法」ではこれらの手法を複合的に用いてファブリックを制作する。

4-1 授業概要の公開

前述の「テキスタイルデザイン基礎Ⅱ」と同様に授業開始前に授業概要と日程、運営方法について次のように周知した。

ファブリックワーク>コースコンテンツ>春学期授業について>授業概要 より

[授業概要]

(公開期間：2020-04-25 19:50:00～)

○ 授業の到達目標

素材、技法の組み合わせにより様々なファブリックが生み出される。布、糸、繊維素材の特性とそれを生かした加工方法を学び、自分のイメージが素材やデザインを通して第三者に伝わるようにする。また素材の中にはリサイクル素材という選択肢があることを知る。

○ 授業概要

ファブリックとは生地、織物の総称だが、現代では何かを包んだり覆ったりする比較的柔らかい素材を広範囲に意味する。何かをデザインをするにあたり、世の中に存在する多種多様な素材を知る事は大切である。

(中略)

人の生活の中に関わる多様なシーンに合わせたファブリック素材づくりの発想力を養うために、ここでは、既成概念にとらわれずに自由な考えで、素材としてのファブリックを制作する。課題作品として各自のデザインによるファブリックを用いた衣装を制作する。

本来の到達目標、授業概要にできるだけ沿って行いたいと思っています。最終課題については自宅学習のできる範囲で行います。

当面はmanabaを利用した自宅学習を予定しています。

事前に課題を出題するので提出期限までに提出をしてください。

提出期限内のレポート提出を「出席」とします。

リマインダーを設定し、課題の確認、提出が遅れないよう注意してください。

4-2 テクスチャ採集

同時に第1回授業課題「テクスチャ採集」を出題した。身の回りにあるものを視点を変えて観察する訓練でもある。この後の課題に使用する材料の準備についても記載した。以下、manabaに公開したコンテンツより抜粋。

ファブリックワーク>コースコンテンツ>春学期授業について>第1回授業課題（5月8日18:00提出）より

[第1回授業課題（5月8日18:00提出）]
（公開期間：2020-04-25 19:50:00～）

○ テクスチャ採集

テクスチャ = (texture) 一般的には織り方、織地、生地、(皮膚・木材・岩石などの) きめ、手触り、肌合い、性格等の意味がある。テキスタイルを学ぶ上では欠かせない要素である。

ここでは触覚的な表情と捉えるとわかりやすい。

◇ テクスチャ採集として身の回りのテクスチャをまず探してみてください。(布以外のテクスチャを探してください)

次にテクスチャ以外にも気になった模様や色、景色、現象など、また書籍やインターネット上で見つけた画像、これらをできる限り収集する。その中から表情の異なる5枚を選び提出してください。コラージュでも可。

例：樹皮の写真、うろこ雲の写真、川原の石ころの写真、偶然撮れた美しい色合い、Web上で見つけたサンゴ礁の画像、顕微鏡で見た細菌の画像などなど

自宅にある普段見慣れたものでも見る角度を変える、拡大する、変形させる、光の当て方を変える、など視点や捉え方を変えると新たな発見があるはずです。発想を柔軟にする目的でも視点を変えて普段の景色を見つめ直してください。

◇ 提出期限：5月8日 18:00

(中略)

○ 材料の準備

2回目以降は実際に材料を使った課題となります。選んだ5枚の画像を貼る、縫う、結ぶ、繋ぐなどの手法により素材で表現します。外出は避けて、自宅で見つけるなどできる範囲で材料の準備を進めてください。

◇ 自宅に着なくなった衣類や布類、布に限らず紙、ビニールなどのソフトな素材、また使い方によっては金属、木、プラスチックなどハードな素材も考えられます。平面に限らず繊維、糸、紐、棒、その他、形状にこだわらず探す。ここでも視点を変えることにより新たな発見があるはずです。普段の生活用途から離れ「素材」として周りのものを見てください。(ストロー、綿棒、金たわし、割り箸、PPテープなども材料になり得る)

◇ 糊、ボンド、グルーガンなどの接着材料、針、糸など裁縫道具、はさみ、カッターなど加工に必要な用具の準備。その他ホッチキス、クリップ、安全ピン、結束バンドなども使用可です。

4-3 イメージを素材で描く

第2回～6回にかけて「イメージを素材で描く」課題として第1回課題で収集した画像から各1枚を選び「貼る」「縫う」「結ぶ・巻く・繋ぐ」「織る・編む」「複合手法」で素材に置き換え表現する課題を出題。

以下にmanabaで公開した「貼る」の内容を抜粋する。

ファブリックワーク>コースコンテンツ>第2回授業課題（5月15日23:55提出）>課題内容1より

[課題内容1]

公開期間：2020-05-09 12:00:00～

○イメージを素材で描く

第2回～6回は画像を素材に置き換えて表現する課題です。

1. 貼る 2. 縫う 3. 結ぶ・巻く・繋ぐ 4. 織る・編む 5. 複手法
この5通りの方法でそれぞれの画像を表現してもらいます。

今回は「貼る」です。

○「貼る」

提出してもらった5枚の画像から1枚を選び、糊、ボンド、グルーガンなど接着材料を使用し「貼る」という方法で画像を素材で表現してください。

使用素材：布、糸、紙、その他自宅で発見した材料など自由に使用
サイズ：20cm×20cm程度

- 紙や布をベースにして素材を貼る
- 平面に限らずレリーフ、半立体なども可



図6-1：「貼る」学生作品

- 素材によるコラージュと考えると制作しやすい。

◇提出物

1. タイトル、画像から受けたイメージ、制作意図を簡単にまとめた文章を提出（wordなどにまとめる）
 2. 選んだ画像
 3. 制作物（撮影又はスキャンした画像データ）
 4. 使用素材（撮影又はスキャンした画像データ）
- ※文章、画像を1枚にまとめPDFなどでファイル提出してもよい

◇提出期限：5月15日 23:55

(中略)

◇「課題内容2」に制作例を載せています。参考にしてください。

以上の要領で、「縫う」以降の課題も manaba のコンテンツに資料を添えて公開した。画像から受け止めたイメージを学生が各々に解釈し、それぞれの手法をもって素材で描いている。(図6-1)(図6-2)(図6-3)(図6-4)(図6-5)



図6-2：「縫う」学生作品



図6-3: 「結ぶ・巻く・繋ぐ」学生作品



図6-4: 「織る・編む」学生作品



図6-5: 「複合手法」学生作品

4-4 課題作品の制作

これらの基礎課題を経て第7回からは「課題制作」として、各自で設けたテーマに沿って、ファブリック及び衣装のデザイン・制作を行った。

ここではより具体的なデザインが要求されること、2コマであること、学生の通信環境の確認がとれていることからZoomによる授業を実施し、毎回一人一人に指導を行った。オンラインでは実際の素材感や量感を確認することができないため難しい部分はあったが、それぞれのテーマを形にしてまとめ上げた作品には遠隔授業の不自由さを感じさせない強さがあった。(図7-1)(図7-2)

以下、manabaに公開した課題内容を抜粋する。

ファブリックワーク>コースコンテンツ>6月12日以降の授業について>課題内容 より

「課題内容」

公開期間：2020-06-11 18:25:00～

○ 課題

「穴のあいた身にまとう布」

○ 制作条件

- ◇ 身に着ける（まとう）ことを前提とする。形状は問わない
- ◇ 穴の数は自由。機能的にも装飾的にも捉えられる穴をうまくデザインにとり入れる
- ◇ 使用する素材や手法は自由（腐食するもの、有害なものは避ける）
- ◇ マテリアルとフォルムの相互関係を考える
- ◇ サステイナブル、アップサイクルデザインを考える
- ◇ 作品サイズ：0.5～1㎡程度の面積
- ◇ これまで取り組んできた「イメージを素材で描く」課題を生かし、イメージに合ったファブリックを創作する



図7-1：「課題制作」学生作品①



図7-2：「課題制作」学生作品②

5 まとめ

5-1 春学期を終えて

テキスタイルデザイン分野では実際に素材に触れ、色を作り、技法を学んだ上でデザインの感覚を養うことが重要になる。今回のオンライン授業では道具、材料などの教材を送付することでこれに対応したが、専門性が高くなると、やはり学内設備を使用した対面での授業は必須になる。

対面に比べると学生の個性が見え辛かった。例えば画用紙に描いた線や形、色づかい、またはスケッチブックやノートの端のいたずら描き、持ち物やファッションなどからも個性が垣間見える。それが興味や長所を伸ばすひとつのきっかけにもなっていた。良い意味でも悪い意味でもその余白とも言える大事なものが見えてこなかった。

現段階ではネットワーク環境の善し悪しが学修に影響することも問題だ。

その中でオンライン授業のメリットも多く発見できた。manabaやZoomなどのオンラインツールを活用することにより、時間や場所の制限を設けることなく授業を行うことが可能になる。これは今後の授業形態の多様性を考える上で大きな収穫である。画面共有機能により授業資料や学生のプレゼンテーションを同時に参加者全員と共有できるのも良い。

また、これまでの対面授業では資料の提示や技法の説明の際、後方の席にいる学生には十分に伝わらず理解不足のまま授業が進行するなど、席順によって理解度に差が生じることがあった。工程を解説したプリントや拡大表示した教材の作成、また、少人数に分けて説明するなどの対策はしていたが効率はよくない。Zoomでのオンライン授業ではウェブカメラを使用するため説明映像を全員が同じ視点で視聴することができる。これにより平等性が確保できた。また、あらかじめ動画によるオンデマンド教材を作成し、いつでも閲覧できるようにしておくことにより学生が自分のペースで作業を進行できる利点もある。manabaを利用することにより履修生への連絡、教材の配布、課題の出題、提出物の管理、出席管理が容易になった。

5-2 視点を変える

今回の自粛期間中に自宅にある生地や日用品をあらためて見つめ直す課題を2科目で設けた。日常にある「当たり前」を今までとは違う視点で見直し、新しい価値を創出することはデザインのみならず実社会で活動する上でも大切な能力である。特にこれからの新しい日常を生き抜くためには常識に囚われない柔軟な思考が必要である。

秋学期の授業ではカメラを通して手元を大型ディスプレイに映し出す試みや、動画によるオンデマンド教材の作成など、春学期の経験を生かした授業方法を取り入れている。これから多様化が予想される教育のスタイルに対応すべく私自身も柔軟な視点をもって臨みたい。

¹ manaba
朝日ネットが提供するクラウド型教育支援システム。
<https://manaba.jp>

² Zoom
ズームビデオコミュニケーションズが提供するクラウド型Web会議システム。
<https://zoom.us>

謝辞

本稿執筆に当たり、参考資料として提出課題の使用を快諾してくれた学生の皆に感謝します。